

## 4-1-6-11 婦人科

### 1.概要、特色

婦人科は当センターの構成上は第二専門診療部に所属する一方、実際の臨床上は周産期診療部の産科、胎児診療科、不妊診療科、不育診療科、母性内科とも緊密な連携の下に、産婦人科診療の一翼を担っている。今年度(2004年度)も、第二専門診療部(外科系)における役割とともに、女性診療科としてのコンセプトの下、小児から成人女性まで広い年齢層における婦人科診療をカバーし、成育医療センター内の女性医療専門科として以下のような点に重点をおいた診療を行ってきた。

#### 1.1 小児・思春期婦人科

小児から思春期までを対象とした婦人科、いわゆる小児・思春期婦人科として各種疾患の診断と治療を行っている。この分野はこれまであまり注目されていなかったこともあり、専門で診療できる施設は少ないため、近隣のみならず遠方からも紹介をいただいている。さらに、思春期から性成熟期女性の総合医療を志向して、思春期診療科、こころの診療部、内分泌代謝科との連携の下に診療を行っている。

また、幼少時に先天異常などに対する手術や小児悪性腫瘍に対する治療を受けた既往をもつ女性における月経不順などの卵巣機能不全の精査・治療、性生活のカウンセリングも行っており、妊娠・出産へのカウンセリングや協力体制も整いつつある。

#### 1.2 将来の妊娠・出産に向けての健康維持と管理

周産期診療部各科と連携して、将来の妊娠に備えるべく子宮内膜症や子宮筋腫といった婦人科疾患の診断と治療を行っている。腹腔鏡、レーザー手術など進歩しつつある各種技術、技法を積極的に取り入れて妊孕性の確保に十分注意を払った治療を心がけている。特に子宮頸部初期癌に対するレーザー円錐切除術などの縮小手術による妊孕性温存手術を積極的に行っており、ご紹介いただく件数も増加している。

「生殖年齢の高齢化」により上記婦人科疾患の有病率は高まり、診療ニーズは増加する一方である。また「性の低年齢化」によりSTDによる若年患者の受診・教育的カウンセリングのニーズも多く、成育医療における婦人科対応の需要が急増している。

#### 1.3 妊娠合併腫瘍の管理・治療

妊娠中に発見された婦人科腫瘍、例えば子宮頸部初期癌や卵巣腫瘍などの治療は、病状の進行度と胎児発育・妊娠経過の双方を検討しつつ対応することが重要である。当科では、母児ともにより良好な予後を得られることを目標に、産科・新生児科との協力体制の下で早期の診断および初期癌症例の治療を行っている。

#### 1.4 月経関連疾患

女性にはホルモン変化に基づく身体症状や気分の変動がみられる。月経不順など月経周期そのものの異常のみならず、月経周期に関する心身の症状：月経痛、乳房痛、頭痛、抑うつ症状などに対しても、このホルモン変動を考慮に入れた治療を心がけている。

月経前症状(PMS/PMDD)に関する外来患者数は増加し、適切な診察・アドバイス・薬剤処方することにより、比較的良好な改善率を認めている。今後もこの分野の「科学的診断・治療の確立」を目指して、さらに診療と調査を進めている。

#### 1.5 幸せな一生のために - 生活習慣病の早期予防

女性として健康に一生を送ることができるように、若年時から肥満、高血圧、糖尿病、骨粗鬆症や高脂血症といった生活習慣病や癌に対する知識を持ち、検診・予防を行うことも重要であると考えており、ライフスタイル改善や産婦人科疾患との関わりの現況について積極的に啓蒙している。

## 2. 診療活動、研究活動

### 2.1 外来診療

外来診療は種々の limiting factor があり、現在のシステムや人材、スペースなど種々の問題点の改善がなければ、現在の1日25名程度の外来患者数が max であると思われ、今後の検討課題となっている。また、女性総合外来に於いては開設準備段階よりチームの一員として関与してきたが、今後も女性診療の専門科として協力していく予定である。

### 2.2 手術

疾患別手術件数を別表に示す。婦人科関連手術ではセンターの性格上、本年度も妊孕性を温存できる子宮筋腫核出術や良性卵巣腫瘍摘出術、また子宮頸部初期癌に対するレーザー円錐切除術が多かった。小児領域の手術では外陰部の形成が比較的多く、若年者の尖型コンジローマに対するレーザー治療もあった。2004年3月から8月までの半年間は医長不在期間中であり、医員：現在の医長1人での対応を余技なくされたが、周産期診療部レジデント協力のもと、手術総数に関しては昨年度レベルを維持することができた。

しかしながら医療の安全性を維持する面からも、また医師の過剰労働を防止の面からも、今後の手術数増加の為には各方面における体制改善が目標となる。

### 2.3 研究活動

研究活動に関しては、昨年秋に研究所が開設された現在も、センター病院勤務者にとっては様々の制限があるのが現状である。

子宮内膜症、月経関連疾患、原疾患治療後の卵巣機能不全、生殖機能の老化など、女性のQOLや生涯設計に支障をきたす婦人科的・生殖医学的問題は多種多様である。

これらの課題に関して、性差医療・女性医療を担う国立センター専門科としてEBMを展開する為に、臨床データのみならず、院内ラボや研究所の関係部署各位の協力を得て、基礎的・科学的な取り組みを開始している。

(以下、表添付)

病名	術式	詳細	例数(2004年度)
子宮筋腫	単純子宮前摘出術	腹式	8
	子宮筋腫核出術	開腹	15
		子宮鏡下切除術	4
子宮腺筋症	単純子宮摘出術	腹式	4
卵巣腫瘍	嚢腫摘出術	開腹	15
		腹腔鏡	12
	付属器切除	開腹	3
子宮腔部異型上皮	蒸散術	CO2レーザー	5
CIN or 子宮頸癌	円錐切除術	レーザー	9
子宮内膜増殖症	子宮内膜搔爬	腔式	3
	単純子宮全摘術	腹式	2
子宮頸管狭窄	狭窄部解放術	レーザーなど	1
骨盤内血腫除去	血腫、付属器血腫除去術	開腹	2
外陰部奇形など	腔外陰部形成	レーザーなど	7
外陰 or 腔血腫	血腫除去術	腔式レーザーなど	3
尖型コンジローマ	焼灼術	CO2レーザー	2